

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校柳川リハビリテーション学院
設置者名	学校法人高木学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	新課程：9単位 旧課程：9単位	9単位	
	作業療法学科	夜・通信	新課程：9単位 旧課程：9単位	9単位	
	言語聴覚学科	夜・通信	9単位	9単位	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/ 2 実務経験のある教員等授業科目一覧
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校柳川リハビリテーション学院
設置者名	学校法人高木学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

当学院のホームページに公開

<https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/>

9理事名簿一覧

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	私立大学学長	R2. 6. 1 ～R6. 5. 31	組織運営体制の チェック機能
非常勤	私立大学名誉学長	R2. 2. 5 ～R6. 2. 4	組織運営体制の チェック機能
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校柳川リハビリテーション学院
設置者名	学校法人高木学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>							
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>毎年12月～2月にかけて、次年度の授業科目の担当講師を選定。各担当講師に次年度の授業計画(シラバス)の作成を当学院の書式で依頼。 毎年3月に、次年度の授業計画(シラバス)集が完成。 毎年4月に、授業計画(シラバス)集を当学院の全教職員および全学生が利用するコミュニケーションツール“Classi”にて学生へ公開し、その使用方法や目的をオリエンテーションしている。また、担当講師より、授業初日にシラバスに基づいたオリエンテーションを実施している。</p>							
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/</p> <table border="1"> <tr> <td>3</td> <td>シラバス(理学療法学科)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>シラバス(作業療法学科)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>シラバス(言語聴覚学科)</td> </tr> </table>	3	シラバス(理学療法学科)	4	シラバス(作業療法学科)	5	シラバス(言語聴覚学科)
3	シラバス(理学療法学科)						
4	シラバス(作業療法学科)						
5	シラバス(言語聴覚学科)						
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>							
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>学修意欲の把握に関しては、担任制を導入し定期的な面接を行っている。授業態度や成績状況によっては、面接を随時行い状況把握に努めている。 試験等に関しては、原則は各科目の講師が担当するが、定期試験期間を定めて実施している。また、科目によっては、試験のみではなく、小テスト、レポート、実技試験等を含めて実施している。卒業論文に関しては、3年次の10月または11月に研究発表会を実施し、論文内容だけでなくプレゼンテーション方法も加味して評価している。 単位の授与に関しては、年度末の運営会議の議を経て行っている。 尚、学則や履修規定に関しては、「学生案内」に記載し、毎年4月に担任より学生に配布しオリエンテーションを行っている。</p>							

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

各授業科目の成績は、100点満点とし、60点以上を合格とする。

成績評価	A	B	C	D
点数	80～100点	70～79点	60～69点	59点以下
可否	合格	合格	合格	不合格

定期試験以外に、小テスト、レポート、実技試験等を加味して成績評価を行う場合に、1点未満の端数があるときは、四捨五入する。

尚、各科目の成績評価の方法は「授業計画(シラバス)」、学則や履修規定は「学生案内」の冊子に記載し、毎年4月に担任より学生に配布しオリエンテーションを行っている。

また、令和2年度よりGPA制度を導入している。基準は、以下の表に示す。

成績評価	GP算出時の表記	成績素点(100点満点)	GP配点	可否
A	S	90～100	4	合格
	A	80～89	3	合格
B	B	70～79	2	合格
C	C	60～69	1	合格
D	D	59以下	0	不合格

GPA計算式の例は、

$$\frac{(A \text{ 科目 } GP \times A \text{ 科目 単位数}) + (B \text{ 科目 } GP \times B \text{ 科目 単位数}) + \dots + (Z \text{ 科目 } GP \times Z \text{ 科目 単位数})}{(\text{履修科目総単位数})}$$

なお、各クラスや各科目の成績状況に関しては、運営会議に提出し状況把握に努めている。また、個人の成績表に関しては、各科目の成績素点と各期のGPAを記載して、期末毎に郵送している。

客観的な指標の算出方法の公表方法	当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/ 1 成績評価・卒業認定
------------------	---

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業に関しては、各学科で定める授業科目及び単位数を修得していることとなっている。条件を満たした者については、卒業判定会議の議を経て、学院長が卒業を認定する。学院長は卒業を認定した者に対して、卒業証書を授与する。卒業証書授与式は、毎年3月に実施している。

尚、学則および履修規定は、「学生案内」に記載、毎年4月に担任より学生へ配布しオリエンテーションを行なっている。

卒業の認定に関する方針の公表方法	当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/ 1 成績評価・卒業認定
------------------	---

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校柳川リハビリテーション学院
設置者名	学校法人高木学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/
収支計算書又は損益計算書	
財産目録	
事業報告書	
監事による監査報告（書）	
	6 学校法人高木学園 事業報告書
	7 学校法人高木学園 計算書類
	8 学校法人高木学園 監査報告書

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	理学療法学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,300 単位時間/108 単位	1,725 時間	480 時間	1,035 時間	0 時間	60 時間
3,300 単位時間/単位							
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		121人	0人	6人	25人	31人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

（概要）厚生労働省から出された指定規則に則ったカリキュラムを構築。
毎年4月に、授業計画（シラバス）集をClassiで学生へ公開し、その使用方法や目的をオリエンテーションしている。また、担当講師より、授業初日にシラバスに基づいたオリエンテーションをお願いしている。
また、授業アンケートにより、内容や計画の検討・修正等も行っている。

成績評価の基準・方法

（概要）各授業科目の成績は、100点満点とし、60点以上を合格としている。定期試験以外に、小テスト、レポート、実技試験等を加味して成績評価を行う場合に、1点未満の端数があるときは、四捨五入する。
また、令和2年度よりGPA制度を導入している。基準は、以下の表に示す。

成績評価	GP算出時の表記	成績素点（100点満点）	GP配点	可否
A	S	90~100	4	合格
	A	80~89	3	合格
B	B	70~79	2	合格
C	C	60~69	1	合格
D	D	59以下	0	不合格

卒業・進級の認定基準
(概要) 試験等に関しては、原則は各科目の講師が担当するが、定期試験期間を定めて実施している。また、科目によっては、試験のみではなく、小テスト、レポート、実技試験等を含めて実施している。 進級や単位の授与に関しては、年度末の運営会議の議を経て行っている。 また、卒業に関しては、各学科で定める授業科目及び単位数を修得していることとなっている。条件を満たした者については、卒業判定会議の議を経て、学院長が卒業を認定する。
学修支援等
(概要) 担任、副担任を配置。ホームルームや年2回の個人面談等を通して、個々の学生の状況を把握。成績が低迷している学生に関しては、個別の学修指導の他に、家族との連絡調整や必要に応じて三者面談等を行いながら対応している。その他、必要に応じて、スクールカウンセラーへの紹介も行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
31人 (100%)	0人 (0%)	25人 (80.6%)	6人 (19.4%)
(主な就職、業界等) 病院、介護保険施設、障害者支援施設			
(就職指導内容) 就職説明会、キャリア支援講座（自己分析、選考対策、就職セミナー、面接研修、個別相談等）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 理学療法士国家試験受験資格取得			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
114人	4人	3.5%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉学意欲喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、副担任を配置。ホームルームや年2回の個人面談等を通して、個々の学生の状況を把握。成績が低迷している学生に関しては、個別の学修指導等を必要に応じて実施している。職業に対する興味・関心の低下に関しては、個別面談の回数を増やす以外に、施設見学やボランティアを通し有資格者の働く姿を見る機会を提供したりしている。また、家族との連絡調整や必要に応じて三者面談等を行いながら対応している。その他、スクールカウンセラーも配置して対応している。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
医療分野	医療専門課程	作業療法学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,250時間/110単位 単位時間/単位	1,950 時間	300 時間	1,000 時間	0 時間	0 時間
			3,250 単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	77人	0人	6人	25人	31人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）				
<p>（概要）厚生労働省から出された指定規則に則ったカリキュラムを構築。毎年4月に、授業計画（シラバス）集をClassiで学生へ公開し、その使用方法や目的をオリエンテーションしている。また、担当講師より、授業初日にシラバスに基づいたオリエンテーションをお願いしている。また、授業アンケートにより、内容や計画の検討・修正等も行っている。</p>				
成績評価の基準・方法				
<p>（概要）各授業科目の成績は、100点満点とし、60点以上を合格としている。定期試験以外に、小テスト、レポート、実技試験等を加味して成績評価を行う場合に、1点未満の端数があるときは、四捨五入する。また、令和2年度よりGPA制度を導入している。基準は、以下の表に示す。</p>				
成績評価	GP算出時の表記	成績素点（100点満点）	GP配点	可否
A	S	90～100	4	合格
	A	80～89	3	合格
B	B	70～79	2	合格
C	C	60～69	1	合格
D	D	59以下	0	不合格
卒業・進級の認定基準				
<p>（概要）試験等に関しては、原則は各科目の講師が担当するが、定期試験期間を定めて実施している。また、科目によっては、試験のみではなく、小テスト、レポート、実技試験等を含めて実施している。進級や単位の授与に関しては、年度末の運営会議の議を経て行っている。また、卒業に関しては、各学科で定める授業科目及び単位数を修得していることとなっている。条件を満たした者については、卒業判定会議の議を経て、学院長が卒業を認定する。</p>				
学修支援等				
<p>（概要）担任、副担任を配置。ホームルームや年2回の個人面談等を通して、個々の学生の状況を把握。成績が低迷している学生に関しては、個別の学修指導の他に、家族との連絡調整や必要に応じて三者面談等を行いながら対応している。その他、必要に応じて、スクールカウンセラーへの紹介も行っている。</p>				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
25人 (100%)	0人 (0%)	21人 (84%)	4人 (16%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、介護保険施設、障害者支援施設			
(就職指導内容) 就職説明会、キャリア支援講座（自己分析、選考対策、就職セミナー、面接研修、個別相談等）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 作業療法士国家試験受験資格取得			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
83人	5人	6.0%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉学意欲喪失		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、副担任を配置。ホームルームや年2回の個人面談等を通して、個々の学生の状況を把握。成績が低迷している学生に関しては、個別の学修指導等を必要に応じて実施している。職業に対する興味・関心の低下に関しては、個別面談の回数を増やす以外に、施設見学やボランティアを通し有資格者の働く姿を見る機会を提供したりしている。また、家族との連絡調整や必要に応じて三者面談等を行いながら対応している。その他、スクールカウンセラーも配置して対応している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	言語聴覚学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,435時間/109単位 単位時間/単位	2,490 時間	405 時間	540 時間	0 時間	0 時間
			3,435 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
120人	79人	0人	5人	45人	50人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）				
<p>（概要）厚生労働省から出された指定規則に則ったカリキュラムを構築。 毎年4月に、授業計画（シラバス）集をClassiで学生へ公開し、その使用方法や目的をオリエンテーションしている。また、担当講師より、授業初日にシラバスに基づいたオリエンテーションをお願いしている。 また、授業アンケートにより、内容や計画の検討・修正等も行っている。</p>				
成績評価の基準・方法				
<p>（概要）各授業科目の成績は、100点満点とし、60点以上を合格としている。定期試験以外に、小テスト、レポート、実技試験等を加味して成績評価を行う場合に、1点未満の端数があるときは、四捨五入する。 また、令和2年度よりGPA制度を導入している。基準は、以下の表に示す。</p>				
成績評価	GP算出時の表記	成績素点（100点満点）	GP配点	合否
A	S	90～100	4	合格
	A	80～89	3	合格
B	B	70～79	2	合格
C	C	60～69	1	合格
D	D	59以下	0	不合格
卒業・進級の認定基準				
<p>（概要）試験等に関しては、原則は各科目の講師が担当するが、定期試験期間を定めて実施している。また、科目によっては、試験のみではなく、小テスト、レポート、実技試験等を含めて実施している。 進級や単位の授与に関しては、年度末の運営会議の議を経て行っている。 また、卒業に関しては、各学科で定める授業科目及び単位数を修得していることとなっている。条件を満たした者については、卒業判定会議の議を経て、学院長が卒業を認定する。</p>				
学修支援等				
<p>（概要）担任、副担任を配置。ホームルームや年2回の個人面談等を通して、個々の学生の状況を把握。成績が低迷している学生に関しては、個別の学修指導の他に、家族との連絡調整や必要に応じて三者面談等を行いながら対応している。その他、必要に応じて、スクールカウンセラーへの紹介も行っている。</p>				

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0%)	13人 (72.2%)	5人 (27.8%)
(主な就職、業界等) 病院、障害者支援施設			
(就職指導内容) 就職説明会、キャリア支援講座（自己分析、選考対策、就職セミナー、面接研修、個別相談等）			
(主な学修成果（資格・検定等）) 言語聴覚士国家試験受験資格取得			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	9人	11.3%
(中途退学の主な理由) 進路変更、勉学意欲喪失、病気療養		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任、副担任を配置。ホームルームや年2回の個人面談等を通して、個々の学生の状況を把握。成績が低迷している学生に関しては、個別の学修指導等を必要に応じて実施している。職業に対する興味・関心の低下に関しては、個別面談の回数を増やす以外に、施設見学やボランティアを通し有資格者の働く姿を見る機会を提供したりしている。また、家族との連絡調整や必要に応じて三者面談等を行いながら対応している。その他、スクールカウンセラーも配置して対応している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
全学科	200,000円	700,000円	300,000円	その他として施設整備費
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/ 自己点検・自己評価報告書に掲載		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）		
学校関係者評価委員会規程に基づき、学校関係者評価委員 5 名を選任（保護者地域住民 1 名、学校運営に関する有識者 1 名、高等学校関係者 1 名、卒業生 1 名、地元企業もしくは臨地実習施設関係者 1 名）する。委員の任期は 2 年とする。 評価委員会において、当学院による自己評価の結果に基づき、課題や現状の取り組み・今後の取り組み等、具体的な内容に沿った項目について評価してもらい、その結果を学院長に報告する。指摘事項、改善事項等があった場合は、学院長および各学科長により改善に向けた取り組みを、次年度の自己評価を行う時期（毎年 5 月）までに取り組むこととする。 また、学校関係者評価結果については、運営会議に報告した後、当学院のホームページに公表する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
後援会代表	令和 4 年 4 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 31 日	保護者・地域住民
元柳川市教育長	令和 4 年 4 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 31 日	学校運営に関する有識者
元高等学校校長	令和 4 年 4 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 31 日	高等学校関係者
国際医療福祉大学	令和 4 年 4 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 31 日	卒業生
柳川リハビリテーション病院	令和 4 年 4 月 1 日 ～令和 6 年 3 月 31 日	臨床実習施設関係者
学校関係者評価結果の公表方法		
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 当学院のホームページに公開 https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/about/information/ 学校関係者評価報告書に掲載		
第三者による学校評価（任意記載事項）		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://yanagawa.takagigakuen.ac.jp/ (資料請求先： infoyrg@takagigakuen.ac.jp)
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校柳川リハビリテーション学院
設置者名	学校法人高木学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		47人	43人	47人
内 訳	第Ⅰ区分	19人	—	
	第Ⅱ区分	—	20人	
	第Ⅲ区分	—	—	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				47人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	0人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	—	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。